別記様式

議事録

会議の名称	令和5年度第3回岩倉市子ども子育て会議
開催日時	令和6年2月21日(水) 午前10時から午後12時00分まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第2・第3委員会室
出席者 (欠席委員・事務局)	出席者：渡邊眞依子会長、松本恵会長職務代理、高木辰也委員、町田竜介委員、中島正資委員、廣中大雄委員、丹羽真伸委員、新堀真知子委員、町川麻衣子委員、伊藤弥生委員、牧野佐保委員 欠席者：押上亜弓委員 事務局：教育こども未来部長、子育て支援課長、子育て支援課主幹、子育て支援課児童グループ主査、児童館長
会議の議題	1 第2期岩倉市子ども・子育て支援事業計画の変更について (資料1-1,1-2) 2 アンケート調査の集計結果(速報値)について(資料2) 3 その他(資料3)
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他( )
会議に提出された資料の名称	令和5年度第2回岩倉市子ども・子育て会議議事録 資料1-1 「岩倉市子ども・子育て支援事業計画」変更内容一覧 資料1-2 第2期岩倉市子ども・子育て支援事業計画 新旧対照表 資料2 子ども・子育て支援についてのアンケート調査・お子さんの放課後の過ごし方についてのアンケート調査・子どもの権利についてのアンケート調査結果報告(速報) 資料3 ユース世代による居場所づくりワークショップ(案)
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
開会	
事務局	・令和5年度第3回岩倉市子ども子育て会議を開催させていただきます。
1. あいさつ	
会長	・本日は、「第3期岩倉市子ども・子育て支援事業計画及び岩倉市子ども行動計画」の策定にむけて、現行計画の変更点とアンケート調査結果の速報について報告をいただきます。委員の皆様には、事前にお配りさせていただき、お目通しいただきありがとうございます。 ・この間、こども基本法の制定、こども家庭庁の発足、保育士配置基準の見直しなどがあり、子どもの権利が大切にされてきたと感じています。一方で、コロナによる子どもや親への影響が心配されます。コロナによって子どもの権利が奪われた状況もあります。 ・アンケート調査（速報）でも子どもの変化、子育てに関する変化が報告されます。委員の皆様が感じている子どもの変化について忌憚なくご意見をいただきたいと思ひます。
2. 議題 (1) について 事務局より、資料1-1、1-2に基づき、「岩倉市子ども・子育て支援事業計画」変更内容一覧、新旧対照表について説明	
事務局	・説明のとおり、計画変更については、本会での承認が必要で、その後県へ協議することになるので、よろしくお願ひします。
委員	・五条川小学校区では、放課後児童クラブについて、平日利用から申し込んでいる子どもは校内の施設を利用し、夏休み利用のみの申込者は児童館を利用しており、夏休み利用の子どもが、平日利用の子どもと一緒に遊べなくて寂しいという意見があった。夏休み利用のみの子どもも学校内の施設と一緒に利用することはできませんか。
事務局	・五条川小学校では、放課後児童クラブを学校に隣接させて整備することができました。また、児童館も比較的学校の近くにあります。そのため、校庭や体育館では平日利用も夏休み利用のみの子どもも一緒に遊べるようにしています。 ・学校施設の利用については、学校の協力が必要であり、建物の構造上のセキュリティと放課後児童クラブの運用上の課題もあります。各施設の状況に応じて対応させていただいているので、ご理解をいただきたいです。
会長	・他に意見がなければ事務局案を承認することよろしいでしょうか。
委員（全員）	・異議なし
会長	・承認いただきありがとうございます。

事務局	・ありがとうございます。手続きを進めます。
議題（２）について 事務局よりアンケート調査の集計結果（速報値）～P15 について説明	
委員	・P13「保育・教育事業の利用状況」では、「どれも利用していない」が23%とあります。3歳以上で利用していない比率はどの程度でしょうか。
事務局	・これは0～5歳児までをまとめて出している数値です。子どもの年齢別はまだ集計できていません。
事務局	・今回は結果の速報ということで項目も内容も一部を抽出をしています。次回の会議では詳細をご報告させていただきます。
委員	・P14 放課後の過ごし方（小学生）では「友だちの家にいる」が少なくなっているのはコロナの影響であると思います。
委員	・「友だちの家にいる」が少なくなっているのは、共働きの家庭が増え、放課後児童クラブのニーズが増えていることもあると感じています。
会長	・コロナの影響も共働き世帯の増加も両面あると思います。
事務局	・スポーツや塾などの習い事が10ポイント減少しています。この原因は何かと考えさせられます。
委員	・周囲で、コロナの感染が怖いからと習い事をやめさせたということも聞いたことがあります。
議題（２）について 事務局よりアンケート調査の集計結果（速報値）P16～について説明	
委員	・P25 相談相手、P27 傷つけられた経験の結果は学年別のクロス集計結果があると、小学校教員として、どのように子どもたちの課題にアプローチすればよいかを考えることができます。
事務局	・今回は速報ということで、特定の項目のみを学年別で出しています。 ・次回は詳細を出していきます。
委員	・P30 子ども条例の認知度については、学年別の結果を見たいです。 ・子ども条例について、学校の授業で取り組んでいるのか、子どもたちがいつ頃ふれる機会があるのかを知りたいです。
事務局	・条例制定時にリーフレットを作成して、各小中学校へお配りして、授業等に活用していただいています。
委員	・学年は決まっていません。 ・全国的な人権週間は12月4日から10日までですが、岩倉市は子どもの権利の日を11月20日としており、それに合わせて平成26年から小中学校において人権教育を推進しています。人権週間を知る、子どもの権利を道徳で伝える、小学校低学年の児童には人権に関する講演会を開催、人権に関する紙芝居をしようという提案をするなどしてきた中で、岩倉市人権”愛”言葉をつくり、教室

	に掲げ、人権週間に合わせて何らかの集会をする取り組みをしてきています。 ・子ども条例は形式ばっているため、全校集会で話をしますが、“愛”言葉で「自分はどうか」「友達はどうするか」「困っている人がいたらどうするか」ということを具体的な行動形式で学んだ方がよいと考えています。
事務局	・子ども条例については、3年前にパンフレットを作成して、子どもたちに配布を行いました。 ・岩倉市在住の子どもであれば、高校2年生相当の子どもも周知の対象になっています。
事務局	・学年別の詳細分析は行う予定です。
会長	・委員からのご説明により、「子ども条例」そのものをあまり知らなくても、子どもたちは平たく、内容を知っている、人権の中身を知る活動をしていただいているということでした。
委員	・子どもが3人いて、第1子が小学4年生で、コロナ前の幼稚園行事で保護者と触れ合う機会があり、悩みごとを相談できる関係ができていたが、第3子の幼稚園時は、集まりがなくなり、話をしてはいけない雰囲気がありました。第1子の子育て期がコロナ禍であれば、不安に感じていたと思われるし、そういう人が多かったのではないかと思います。
委員	・人と関わりたくないと考えている人が増えている感じがします。価値観が合わない、ついていけないというギャップを感じたことがあります。
委員	・子どもが小学校に通っていて、放課後児童クラブを利用しています。来年度から児童クラブが大きくなるのですが、6年生で入ってくる人は少ないです。児童クラブは何年生まで利用できるのでしょうか。
事務局	・資料1-2 P2で学年別に見込んだ量と実績があります。 ・児童館で実施していた時は利用学年は4年生まででしたが、場所を学校に移行することで6年生までに拡大します。新設の場合は、5、6年生の利用がない場合があります。4年生まで利用していた子どもたちが続いて利用することで利用数が出てきます。 ・また、親子で意識のギャップもあります。利用学年の大半が低学年なので、5、6年生の親は利用したいと思っても、子どもが「行きたくない」と言い出すことも多いようです。 ・岩倉北小学校は令和4年度に開設して、初年度の6年生は0人、2年目は5年生からの進級で児童が増えました。夏休みは籍を置いて、徐々に少なくなり、最終的に1～2人の在籍でした。
委員	・子育ては大変かを尋ねる設問がありますが、子育てが大変ということは、改善すべきことでしょうか、許容することでしょうか。 ・相談先がないという人が1割程度いますが、いろいろな取り組みが行われてい

	る中で、それでも相談先がないという人はどのような人なのでしょう。
事務局	・立場上から子育ては大変と回答している人に対しては改善すべきことであることです。さらに許容すべきことでもあり、両方あると思います。 ・もちろんどのような大変さかを知る必要はあります。家庭環境も変わってきており、市としてはプロジェクトチームを作り、寄り添っていくことだと考えています。 ・相談先がないという人をアンケートでは特定することはできません。相談先に行けない人をどうするかは課題です。おでかけひよこひろばというアウトリーチ事業も行っています。課題であると感じています。
事務局	・行政と民間と一緒に、どうしたら子育てを楽しいこと、喜びと感じられるようにしていけるかを考えていく必要があると思います。 ・相談できない方は1割がいることを前提に、健診、保育園・幼稚園、民生委員、ネットワークが関わる中で、色々なところで相談しようと思えるようにすることが必要だと思います。 ・外国人住民の方がつながりのある方が多いと感じています。もちろんそれで大丈夫というわけではありませんが、コミュニティがしっかりして、助け合いができていますと思います。
委員	・大変の内容を吟味しながら、どの大変さに寄り添って、対応していくのが大事だと思っています。 ・岩倉市の親子のためにできることは全力でやりたいですし、そのような場と一緒に作っていきたいと思います。
会長	・大変さを抱えている方、相談先がないという方はいろいろな状況があります。何かしら救われるようなものができるとういと思いますので、検討していただきたいです。
委員	・幼児教育・保育に関わっています。子どもの様子も変わってきています。子どもたちとの関係がフラットになってきています。園長だからと言って話しかけることを遠慮されるようではいけないと思っています。声をかけてもらうことも大事です。不安を持っている家庭が少しでも前向きになってもらえる、明日につながるとよいと思います。
議題（3）について 事務局よりユース世代による居場所づくりワークショップ（案）について説明	
事務局	・令和6年度に中高生と話し合いをする場を考えています。
会長	・企画を進めていく形でよろしいですか。
委員（全員）	・異議なし
3 その他事務連絡	
事務局	・名簿にあるように、任期が今年度末までとなっています。令和5年度は今回で

終わります。計画は2か年で作るもので、可能であれば引き続きお願いしたいと考えています。また、役職で委員になってくださっている方には次の方に引継ぎをお願いします。

- ・来年度は計画策定でもあり、5回の開催を予定しています。第1回は5月20日（月）または24日（金）を予定しています。新しい委員が決まりましたら調整をさせていただきます。
- ・ありがとうございました。

以上